

長岡市スポーツ推進計画（骨子案）

目 次

第1章 計画の策定にあたって

- 1 計画策定の目的
- 2 計画におけるスポーツの定義
- 3 計画の位置づけ
- 4 計画の期間
- 5 策定の体制

第2章 基本的な考え方

- 1 ビジョン
- 2 目標
- 3 施策体系図

第3章 施策の展開

1 基本目標1 子どもの成長を支えるスポーツ環境の充実

- (1) 現状と課題
- (2) 施策の方向

(3) 主要施策

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

2 基本目標2 すべての市民が親しむスポーツ機会の充実

- (1) 現状と課題
- (2) 施策の方向

(3) 主要施策

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

3 基本目標3 競技選手の育成と活躍を通じた感動の創出

- (1) 現状と課題
- (2) 施策の方向

(3) 主要施策

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

4 基本目標4 スポーツを支える体制と環境の整備

- (1) 現状と課題
- (2) 施策の方向

(3) 主要施策

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

5 基本目標5 スポーツによる交流と地域活性化の推進

- (1) 現状と課題
- (2) 施策の方向

(3) 主要施策

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の目的

本市におけるスポーツの推進は、市民一人ひとりが心身ともに健康で充実した生活を送り、生きがいや幸福感を実感できる社会の実現に寄与するものである。

スポーツは、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、すべての市民が生涯にわたり親しむことができるものであり、心身の健全な発達、健康の維持増進、達成感や爽快感といった精神的充足感の獲得、人と人とのつながりの形成、地域の一体感の醸成など、多面的な役割を有している。

また、近年は価値観やライフスタイルの多様化が進む中で、スポーツに求められる役割はさらに広がっており、健康づくりやリフレッシュ、交流や仲間づくりといった多様な目的での関わりに広がっている。こうした変化は、スポーツが日常生活の質の向上や自分らしい生き方の実現に資する重要な要素であり、市民のウェルビーイングの向上に寄与するものである。

さらに、スポーツは地域において世代間交流の促進や地域の一体感の醸成、にぎわいの創出にも寄与するものであり、持続可能な地域社会の形成において重要な役割を担っている。

一方で、少子高齢化の進行や安全・安心に対する意識の高まり、ライフスタイルの変化や働き方の多様化等により、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しており、子どもの運動機会の減少や運動習慣の格差、働く世代や子育て世代の参加低迷、担い手不足等の課題が顕在化している。

このような状況を踏まえ、本計画はスポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な関わり方の中で、市民が主体的にスポーツに親しむことのできる環境づくりを推進し、ウェルビーイングの向上と地域活性化の実現を図ることを目的として策定するものである。

2 計画におけるスポーツの定義

本計画におけるスポーツとは、運動競技、レクリエーション活動その他の身体活動、運動競技等を観覧する活動、運動競技等に係るボランティア活動その他これらの活動に関与する活動であって、心身の健全な発達又は生きがいのある豊かな生活の実現を目的として行われるものである。

3 計画の位置づけ

本計画は、長岡市スポーツ推進条例に基づき、本市のスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な指針として策定するものである。

また、長岡市総合計画に掲げるまちづくりの方向性を踏まえ、スポーツ分野における具体的な施策を体系的に整理した個別計画である。

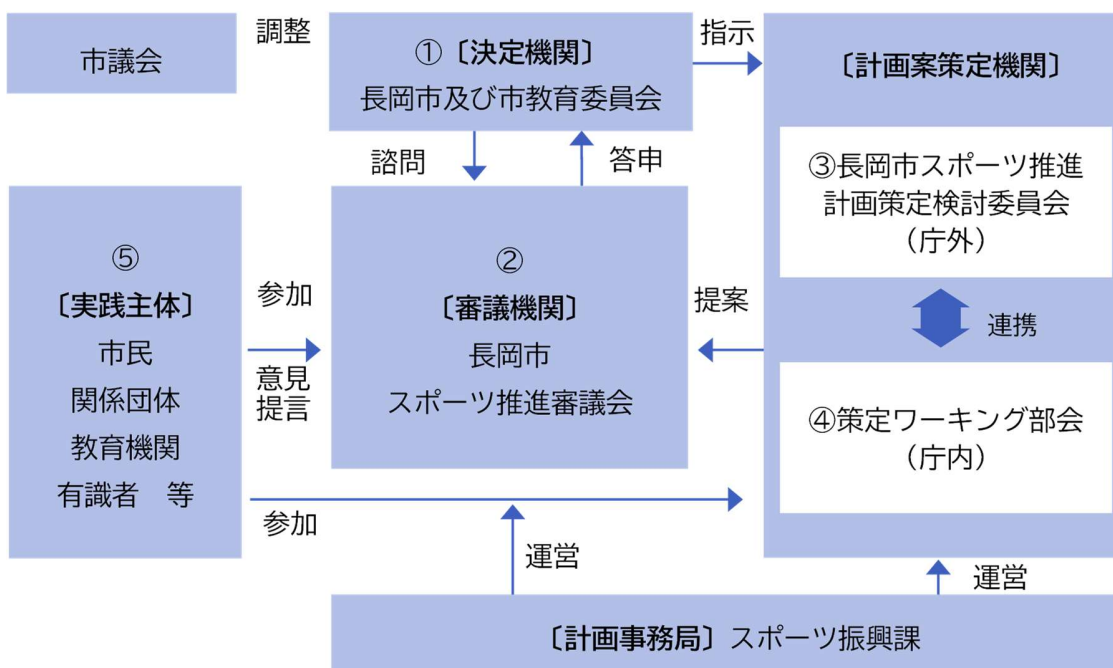
さらに、国及び県のスポーツ関連計画を参酌しつつ、本市の実情に即した施策展開を図るものとする。

4 計画の期間

本計画の期間は10年間とする。

なお、社会情勢や市民ニーズの変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行うものとする。

5 策定の体制



第2章 基本的な考え方

1 ビジョン（目指すまちの状態）

本市は、運動やスポーツを「楽しい」「好き」と感じることを起点に、市民が生涯を通じてスポーツに関わることができる環境を備えたまちを目指す。

また、スポーツを通じて人と人とのつながりが生まれ、市民一人ひとりが生きがいや幸福感を実感できるとともに、まち全体に活力が広がる状態の実現を目指す。

2 目標（ビジョンを実現するために実現すること）

本計画では、市民のスポーツ参画人口の拡大と運動習慣の定着を図り、日常的にスポーツに関わる市民の割合の向上を目標とする。

また、スポーツを通じた健康の維持増進や生きがいの創出、地域とのつながりを深めることで、市民のウェルビーイングの向上を図る。その際、本市出身・ゆかりの競技選手の活躍を通じて夢や感動の共有を図るとともに、スポーツを「支える」活動を通じて、やりがいや社会参加を実感できる機会の創出を促進する。

さらに、スポーツを契機とした交流の拡大により、地域内外の人の流れの創出と地域活力の向上につなげる。

3 施策体系図

基本目標	主要施策
子どもの成長を支えるスポーツ環境の充実	骨子案の意見聴取後に整理
すべての市民が親しむスポーツ機会の充実	
競技選手の育成と活躍を通じた感動の創出	
スポーツを支える体制と環境の整備	
スポーツによる交流と地域活性化の推進	

第3章 施策の展開

1 基本目標 1 子どもの成長を支えるスポーツ環境の充実

(1) 現状と課題

子どもを取り巻くスポーツ環境は、少子化の進行やライフスタイルの多様化により大きく変化している。

本市においては、幼児と保護者や小学生を対象とした運動遊び、ながおかCome100クラブなどの取組により、運動に親しむ機会は一定程度確保されており、運動やスポーツへの興味・関心の向上に寄与している。

一方で、体育授業以外で十分な運動時間を確保できていない児童生徒の割合は増加しており、運動する子どもとしない子どもの二極化が進んでいる。

また、運動やスポーツに対して苦手意識や不安を抱える子どもも一定数存在している。その背景には、勝敗や順位付けされることにより他者と比較されることへの抵抗感や、団体競技で周囲に迷惑をかけてしまう不安感などがあり、運動やスポーツを前向きに楽しむことを妨げる一因となっている。

さらに、中学校における学校部活動の地域展開が進められている中で、休日の地域クラブ活動については、希望者数に応じた活動環境や指導者は一定程度確保しているが、平日の部活動が地域展開されることも見据えて、これからのジュニアスポーツ活動の在り方を検討・整備していくことが必要である。

加えて、志向の多様化により競技志向の強い活動とのミスマッチも指摘されている。

(2) 施策の方向

子どもの発達段階に応じた多様な運動・スポーツ機会を確保し、日常的な運動習慣の形成を推進する。

その際、運動やスポーツを「好き」と感じる子どもを増やすことを重要な指標として位置づけ、意識面の向上を起点とした施策展開を図る。

特に、運動する子どもとしない子どもの二極化や、運動に対する苦手意識や不安が見られる状況を踏まえ、競争や勝敗を過度に重視した従来のスポーツのあり方から、楽しさを実感できるよう、主体性や達成感、一人ひとりの成長を重視する取組へと転換する。

さらに、学校部活動の地域展開を契機として、学校と地域が連携して子どものスポーツ活動を支える体制へと移行するとともに、志向に応じて運動やスポーツを楽しめる環境の整備を推進する。

(3) 主要施策

イメージ（骨子案の意見聴取後に策定作業を行う）

① 主体的に取り組み楽しさを実感できることを重視した運動機会の充実

- ・ 幼児期における運動遊びや親子参加型の機会の充実

- ・発達段階に応じた多様な運動・スポーツ体験機会の充実
 - ・特定競技に偏らない多様な動きづくりの推進
 - ・人間的成長を重視したプログラムの推進
- ② 運動が苦手な子どもへの支援の充実
- ・個々の能力や志向に応じた指導の充実
 - ・成功体験の積み重ねによる自己効力感の醸成
- ③ 体験から継続につなげる仕組みの構築
- ・スポーツ体験機会と地域クラブ等の連携強化
 - ・体験後の参加導線（入会・継続）の整備
 - ・子どもが活動を選択できる情報提供の充実
- ④ 地域におけるスポーツ活動の充実
- ・放課後や休日の運動機会の確保
 - ・身近で継続できる環境の整備と地域間格差の解消
- ⑤ 学校部活動の地域展開の推進
- ・地域クラブ等への段階的移行
 - ・ながおか Come100 クラブ活動の指導スタッフ、活動サポーターの確保
 - ・経済的困窮世帯や送迎困難世帯に対する支援制度の創設
- ⑥ 多様な主体による受け皿の創出
- ・民間事業者（民間スポーツクラブ、指定管理者など）の参画促進
- ⑦ 指導者の確保・育成と指導体制の充実
- ・子どもが主体的に取り組み楽しさを実感することを重視した指導者の育成
 - ・地域指導者の発掘と研修の充実
 - ・指導者と活動のマッチング支援
 - ・小学生を指導する人向けのガイドライン作成

（４）成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

２ 基本目標２ すべての市民が親しむスポーツ機会の充実

（１）現状と課題

市民のスポーツ実施状況については一定の水準にあるものの伸び悩みが見られ、継続的に運動を行う層とそうでない層の二極化が進んでいる。特に、スポーツに関心の低い層や運動習慣のない層に対する参加のきっかけづくりや、継続的な取組へつなげる仕組みが十分とは言えない状況にある。

また、ライフスタイルの多様化に伴い、特に働く世代および子育て世代においてスポーツ参加の機会が限られている。子育て世代においては、育児や家事の負担により外出が制約され、子どもを預けて運動に参加することが難しい場合が多く見られる。一方、

働く世代では、日々の疲労により運動意欲が低下しやすく、心身の回復や健康維持の観点からの運動機会の提供が求められている。

さらに、スポーツに対する志向や目的の多様化が進む中で、従来型の競技志向のスポーツ活動だけでは、市民のニーズに十分に対応しきれておらず、気軽に楽しみたい、健康づくりのために運動したいといった多様なニーズに応じた機会の充実が求められている。

成長段階やライフステージの変化に応じてスポーツとの関わり方を選択できる仕組みが十分に整っていないため、部活動引退後や進学・就職のタイミングでスポーツから離れてしまうケースがみられる。生涯を通じて継続的に、志向に応じたスポーツを楽しむことができる環境を整備する必要がある。

（２）施策の方向

年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、すべての市民がそれぞれのライフスタイルや目的に応じて無理なくスポーツに親しむことができる環境の充実を図り、スポーツ参画人口の拡大と継続的な運動習慣の形成を推進する。

特に、スポーツへの関心が低い層や運動習慣のない層に対しては、気軽に参加できる機会の提供や参加のきっかけづくりを強化するとともに、単発的な参加から継続的な活動へとつなげる仕組みの構築を進める。

また、働く世代や子育て世代に対しては、それぞれの生活実態に応じた参加しやすい環境づくりを進め、託児機能の確保などにより子育て世代が安心して参加できる機会の充実を図るとともに、疲労回復や睡眠の質の向上など、健康づくりにつながる運動機会の提供を推進する。

さらに、健康づくりや仲間づくりなど多様な目的に応じたスポーツ機会を提供するとともに、アーバンスポーツをはじめとする新たなスポーツの普及やスポーツ文化の広がりを通じて、市民一人ひとりが自分に合ったスポーツを選択できる環境づくりを進める。また、総合型地域スポーツクラブ等をはじめとする地域のスポーツ拠点を活用し、多世代が交流しながら、それぞれの志向に応じて生涯を通じてスポーツに親しむことができる環境の整備を進める。

（３）主要施策

イメージ（骨子案の意見聴取後に策定作業を行う）

① 多様な市民ニーズに対応した運動機会の充実

- ・健康づくりやリフレッシュを目的とした軽運動やプログラムの充実
- ・ヨガやピラティスなど、心身の回復や睡眠の質向上につながる運動機会の提供
- ・初心者でも参加しやすいプログラムの実施

② 子育て世代が参加しやすい環境の整備

- ・託児機能を備えたスポーツプログラムの実施
- ・親子で参加できるスポーツ機会の提供
- ・育児と両立できる参加しやすい仕組みの構築

③ ユニバーサルスポーツの推進

- ・障害の有無にかかわらず参加できる機会の提供
- ・年齢や性別、運動の得手・不得手に関わらずスポーツを楽しめる機会の提供
- ・多様性を尊重したスポーツの普及

④ 総合型地域スポーツクラブ等を核とした生涯スポーツ環境の整備

- ・総合型地域スポーツクラブの機能強化・運営支援
- ・多世代が交流しながら参加できるクラブ運営の推進
- ・志向に応じてスポーツを選択できるプログラムの提供
- ・地域における「生涯スポーツの拠点」としての位置づけの強化

⑤ 健康増進のための運動習慣定着の推進

- ・運動習慣定着に向けた健康アプリの活用
- ・地域や企業における各種健康講座の開催
- ・ウォーキングマップを活用した健康づくりの推進
- ・高齢者のスポーツ参加機会の充実

⑥ 新たなスポーツ機会の創出

- ・アーバンスポーツ、e スポーツ等の推進
- ・「食」「音楽」「ファッション」などと融合したスポーツイベントなどの開催支援

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

3 基本目標3 競技選手の育成と活躍を通じた感動の創出

(1) 現状と課題

本市においては、全国大会や国際大会で活躍する選手も輩出されており、その存在は市民に夢や感動を与えるとともに、その活躍を通じてスポーツの魅力を共有し、地域への誇りや一体感を醸成する機会となっている。

また、トップ選手や高いレベルの競技に触れることは、子どもたちが将来の目標や夢を具体的に描くきっかけとなるほか、スポーツへの関心や挑戦意欲を高めることにつながっている。

一方で、競技スポーツを取り巻く環境は、少子化の進行や指導者不足などにより変化しており、競技力向上を支える環境の確保が課題となっている。特に、世界レベルや全国レベルでの活躍を目指す選手にとっては、専門的な指導や強化活動、競技環境の充実など、成長段階に応じた継続的な支援が求められている。

また、スポーツへの関わり方や競技に対する志向は多様化しており、競技力の向上を目指す人もいれば、楽しさや仲間との交流を重視する人もいる。そのため、競技スポーツにおいても一人ひとりの志向や目標に応じて関わり方を選択できる環境づくりが求められている。

このため、競技力向上を目指す選手が高い目標に挑戦できる環境の充実を図るとともに、その活躍を市民全体で共有し、夢や感動につなげていくことが必要である。

（２）施策の方向

競技選手の育成と競技力の向上を図るとともに、その活躍を通じて市民に夢や感動を与えるスポーツ環境の充実を推進する。

特にジュニア期においては、トップアスリートとの交流や高いレベルの競技に触れる機会を充実させることで、スポーツの魅力や可能性を実感し、自らの将来像や目標を描くことができる取組を推進し、夢や挑戦意欲を育む環境の充実を図る。

その際、競技スポーツへの関わり方については、競技力向上を目指す人、競技そのものを楽しみたい人など、多様な志向を尊重し、それぞれの目標や成長段階に応じて選択できる環境づくりを進める。

また、世界レベルや全国レベルでの活躍を目指す選手に対し、競技団体等と連携しながら強化活動や競技環境の充実を図り、選手が持てる能力を最大限に発揮し、高い目標に挑戦できる環境づくりを推進する。

さらに、競技選手の活躍や挑戦の過程を広く発信し、市民がスポーツを通じて夢や感動を共有できる環境づくりを推進する。

（３）主要施策

イメージ（骨子案の意見聴取後に策定作業を行う）

① ジュニア期における夢と目標を育む機会の創出

- ・ トップアスリートによる指導・交流機会の提供
- ・ プロ・全国レベルの競技に触れる機会の創出
- ・ 子どもが将来の夢や目標を描くことができる機会の充実
- ・ 競技スポーツの魅力や可能性の発信

② 志向や成長段階に応じた競技スポーツ環境の充実

- ・ 競技力向上を目指す人と競技を楽しみたい人の双方に対応した活動環境の整備
- ・ 志向や目標に応じた活動選択の推進
- ・ 発達段階に応じた競技機会の充実
- ・ 多様な競技スポーツへの参加機会の提供

③ 有望選手の発掘と育成の推進

- ・ 将来有望な選手の発掘機会の充実
- ・ 発達段階に応じた育成プログラムの推進
- ・ 競技団体と連携した育成体制の整備
- ・ ジュニア期から継続した育成環境の構築

④ 高い目標に挑戦する選手への競技力向上支援

- ・ 強化活動（合宿・遠征等）への支援
- ・ 医科学サポートの活用
- ・ 高度なトレーニング環境の充実

- ・競技団体等と連携した強化体制の充実

⑤ 指導者の育成と指導力の向上

- ・競技指導者の養成と研修の充実
- ・成長段階に応じた適切な指導の普及
- ・ハラスメント防止等の指導環境の改善
- ・選手の主体性を尊重した指導の推進

⑥ 選手の活躍の発信と感動の共有

- ・活躍選手の情報発信・広報の強化
- ・市民が応援できる環境づくり
- ・選手と市民との交流機会の創出

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

4 基本目標 4 スポーツを支える体制と環境の整備

(1) 現状と課題

本市においては、これまでスポーツ活動の多くが地域の指導者、事務担当者及び支援者等（以下「指導者等」）のボランティア精神に支えられながら継続して実施されてきており、指導者等が長期にわたり地域に関わることで、安定したスポーツ環境が維持されてきた。

一方で、近年はコンプライアンス意識の高まりや安全管理に対する責任の増大に加え、子どもや保護者のスポーツに対する志向の多様化などにより、指導者等の負担は大きくなっている。こうした状況を踏まえ、従来のように特定の指導者等がボランティア精神で継続的に関わる体制については維持が難しくなりつつあり、安心して活動に関わることができる持続可能な仕組みの構築が課題となっている。

スポーツ推進団体については、長岡市スポーツ推進委員連盟や地域スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブなど多くの主体が存在するものの、それぞれの役割が十分に整理されておらず、地域全体でスポーツを支える体制の強化が必要となっている。

スポーツ施設については、老朽化が進んでいる施設も多く、大規模改修や更新に伴う財政負担の増加が見込まれる一方、多様化するスポーツニーズにより、施設の多目的化が求められている。

また、今後は人口減少や厳しい財政状況が見込まれる中、スポーツ施設の維持管理や更新に必要な財源の確保が大きな課題となっている。施設の安全性や利便性を確保しながら持続可能な運営を図るためには、民間事業者のノウハウや資金を活用した施設整備・運営手法の導入や、新たな財源確保が必要である。

加えて、スポーツ活動を支える人材の確保においては、「支えること」の意義や魅力が十分に共有されているとは言えない状況にある。指導や運営、ボランティアなどの活動は、参加者の成長や成功を間近で感じることができるほか、地域とのつながりや社会貢献を実感できる貴重な機会であるが、その価値は必ずしも広く認識されていない。

（２）施策の方向

スポーツ活動を支える指導者等や団体、ボランティアなど多様な主体が、それぞれの役割を発揮しながら持続的に関わることができる環境の整備を推進する。

その際、これまで主に指導者等の自主的な関わりと負担により支えられてきたスポーツ環境を踏まえつつ、社会環境の変化や多様化するニーズに対応し、指導者等の負担軽減と安心して継続的に活動できる仕組みの構築を図る。

また、指導者等が課題や悩みを抱えた際に相談できる体制の整備や、適切な指導を行うためのガイドラインの充実、志向やニーズに応じた指導者と活動のマッチングなど、指導者を総合的に支援する環境の整備を進める。

スポーツ推進に関わる団体間の役割分担の明確化と地域スポーツビジョンの共有を図り、スポーツを支える体制と環境の整備を進める。

スポーツ施設については、老朽化への対応を進めるとともに、利用ニーズの多様化や人口減少を踏まえた適正配置と計画的な整備・改修を行う。あわせて、持続可能な施設運営に向けて適正な受益者負担を求めるとともに、PFI や指定管理者制度等の民間活力を活用し、民間事業者のノウハウを生かした効率的かつ効果的な施設運営を推進する。

加えて、スポーツを「支える」活動を、単なる役務の提供としてではなく、人とのつながりや地域貢献、自己成長を実感できる機会として捉え、その価値や魅力の発信を進める。指導者やボランティア等が活動を通じてやりがいを感じ、参加者や地域からの感謝や信頼を実感できる環境づくりを推進する。

（３）主要施策

イメージ（骨子案の意見聴取後に策定作業を行う）

① 指導者等が継続的に関われる仕組みの構築

- ・指導者等の負担軽減に向けた環境整備
- ・活動に応じた支援や条件整備
- ・指導者、クラブマネージャーの養成と参画促進

② 指導者等支援体制の充実

- ・指導者等が相談できる窓口の整備
- ・指導に関する課題共有・解決の仕組みづくり
- ・安心して活動できる支援ネットワークの構築

③ 指導力向上と適切な指導環境の整備

- ・スタッフ向けガイドラインの整備・普及
- ・コンプライアンス・安全管理に関する研修の充実
- ・多様な志向に対応した指導方法の普及

④ 指導者等と活動をつなぐマッチングの推進

- ・地域や種目、志向に応じた指導者のマッチング
- ・指導者バンク等の仕組みの構築

⑤ スポーツ推進団体の連携と体制強化

- ・市スポーツ推進委員連盟、競技団体、総合型クラブ等の役割の整理
- ・地域スポーツビジョンの共有

⑥ スポーツ施設の計画的整備と有効活用

- ・老朽化施設の計画的な改修・更新
- ・多目的利用や柔軟な運用の推進
- ・PFI や指定管理者制度等を活用した施設運営の推進
- ・ネーミングライツ等による自主財源の確保
- ・クラウドファンディングを活用した施設整備等の推進

⑦ スポーツを「支える」関わりの拡充

- ・スポーツボランティアの認知向上
- ・学生・社会人・シニアなど多様な人材の参画促進
- ・地域イベントや大会運営への参画促進
- ・共生社会や地域づくりに貢献する取組への参画促進
- ・ボランティア活動を通じた地域交流の促進

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う

5 基本目標5 スポーツによる交流と地域活性化の推進

(1) 現状と課題

本市においては、プロスポーツ（新潟アルビレックス BB、オイシックス新潟アルビレックス BC など）や各種競技大会の開催により、トップレベルの競技に触れることができる環境が整っている。

また、海・川・山といった多様な地理的特性や、四季折々の地域のスポーツ資源を有しており、スポーツを通じた交流や地域活性化につなげる高い潜在力を有している。

さらに近年では、e スポーツの普及により、幅広い層が参加できる新たな交流の機会が生まれており、イベントには市外・県外からの参加者に加え、配信者（ストリーマー）等を目的としたファンの来訪も見られる。イベント後に市内での飲食や参加者同士の交流が行われるなど、新たな人の流れが生まれ、地域活性化に寄与する事例も見られている。

一方、観光関係団体においては、大会や競技会等の開催を支援する助成制度が設けられているものの、スポーツイベント分野における制度の認知や活用は十分とは言えず、さらなる周知と活用促進の余地がある。

このため、既存のスポーツ資源や支援制度の周知を促進するとともに、新たなスポーツの広がりも踏まえながら、スポーツを通じた人の流れや交流を地域活性化につなげる取組を推進する必要がある。

（２）施策の方向

プロスポーツや各種競技大会、海・川・山の自然環境など、本市が有する多様な地域資源を生かし、スポーツを通じた交流の促進と地域活性化を図る取組を推進する。

新潟アルビレックス BB 及びオイシックス新潟アルビレックス BC などのプロスポーツや大規模大会を活用し、市民がトップレベルのスポーツに触れる機会を充実させるとともに、観戦を契機とした来訪や滞在の促進につなげる。

また、トレイルランニングやビーチスポーツ・マリンスポーツなど、多様な地理的特性を活かし、アウトドアスポーツや参加型イベントの支援を図るとともに、四季の魅力や地域の特色を生かしたスポーツイベントの展開を推進する。

さらに、観光関係団体が実施する開催支援制度の周知を図ることにより、多様な主体によるスポーツイベントの開催を促進する。

加えて、e スポーツなど新たなスポーツイベントの開催や交流機会の創出を通じて、幅広い世代や多様な層が参加できる交流の場の形成を推進する。イベント参加者や配信者等の来訪に加え、それを契機としたファン同士の交流や市内での飲食など、イベントを起点とした地域内での人の流れや広がりを促進し、地域活性化につなげる。

（３）主要施策

イメージ（骨子案の意見聴取後に策定作業を行う）

① プロスポーツ・大規模大会を活用した交流機会の創出

- ・新潟アルビレックス BB などのプロスポーツやトップレベル競技の観戦機会の充実
- ・市民が身近に観戦できる環境づくりの推進
- ・観戦を契機とした来訪や滞在の促進
- ・大会やイベントと連動したにぎわいづくりの推進

② 地域特性を活かしたスポーツ機会の創出

- ・中山間地域を活かしたトレイルランニング等のスポーツ機会の創出
- ・寺泊の海を活用したビーチスポーツ・マリンスポーツの展開
- ・地域資源を活かした体験型スポーツプログラムの支援
- ・四季の魅力や地域の特色を生かしたスポーツイベントの推進

③ 大会・イベント開催支援制度の活用促進

- ・大会や競技会等の開催支援制度の周知の強化
- ・スポーツイベントにおける制度活用の促進

④ e スポーツを活用した交流機会の拡大

- ・e スポーツイベントの開催支援
- ・幅広い世代が参加できる交流機会の創出
- ・配信者（ストリーマー）等の来訪を通じた新たな交流の促進
- ・ファン等の来訪やイベント後の交流によるにぎわいの創出

⑤ イベントを起点とした地域内交流の促進

- ・ 大会やイベント参加者の市内回遊の促進
- ・ 飲食等と連動したにぎわいの創出
- ・ 参加者や来訪者同士の交流機会の創出

(4) 成果指標

骨子案の意見聴取後に策定作業を行う